

## 原爆被害の継承と実践

国内研修奨励

〔研修機関〕：広島医療生協原爆被害者の会

根本 雅也

一橋大学大学院社会学研究科博士課程

## 発表の構成

1. 「研修」の目的と背景
2. 「研修」先
3. 「研修」において学んだこと
4. 実践のひとつのかたち

### 1. 「研修」の目的と背景

目的

- 原爆被害を理解すること
- 証言活動のあり方を探ること

背景

原子爆弾

- 多くの人々の生命を奪い、負傷させる
- 生き残った者にも健康、生活などの面で影響
- 戦後、繰り返される核兵器の製造と実験
- 現在でも世界で2万発を超える核兵器が存在

### 目的と背景(その2)

原爆被害者の証言活動

- 自らの体験を語り始める
- 平和教育から広島修学旅行の増加
- 証言活動の組織化
- 観光の促進

プラス(のように思われる)面

- 容易に原爆被害者に話を聞くことが可能
- より多くの人々が話を聞くことができる

### 目的と背景(その3)

マイナス(のように思われる)面

- 事前学習の少なさ
- 証言者一人あたりに対する聞き手の人数の多さ
- 時間制限

このような証言のあり方では、抜け落ちてしまうことや理解できないことがあるのでは？

証言活動を行う人々の視点から考える必要性

← 原爆被害者にとっての原爆をまず理解する必要性

方法：広島に滞在して持続的に原爆被害者と接し、活動をともにする

### 2. 「研修」先

研修先：広島医療生活協同組合原爆被害者の会  
主な理由：(1)現在も定期的に諸種の活動を展開、  
(2)証言活動をしていること

概要

1974年結成。会員数は現在200名を切る  
活動

会員のための諸種の活動(会報の発行など)  
被爆者運動への参加、  
体験記集の発行、  
韓国人原爆被害者との交流  
証言活動

←これらを企画・運営するのが役員会：月1回開催

## 2. 「研修」先

【資料】会の活動



左:会報

中:手記集

右:在韓被爆者との交流(2008年6月)

## 3. 「研修」において学んだこと

### 3-1. 役員会

話題のひとつとしての原爆

ex.新しいニュースや何かがあるごとに原爆の話

役員会に参加することで見えた二つの特徴

原爆は、いまだに理解の範囲を超えた出来事

原爆の存在は、被爆者にとっていまなお「不安」という形で身近にある

= 語り手が表現しにくいこと

= 聞き手にはわかりにくいもの



## 3. 「研修」において学んだこと

### 3-2. 証言活動

証言する原爆体験者

- 「伝えたい」、「理解してもらいたい」という思い
  - 証言者の悩み: 表現の仕方が分からない限られた時間の中で上手く伝えるには? 当時の時代状況を知らない人にどう伝えればよい?
  - 不安と喜び
- 証言活動:ある種の「コミュニケーション」?
- = 聞き手の存在が必要。聞き手との関係のなかで体験者も揺れ動く。

## 3. 「研修」において学んだこと

【資料】証言活動の風景



上:大人数での証言



下:少数での証言

## 3. 「研修」において学んだこと

### 3-3. 聞き手の主体性

「コミュニケーション」

= 聞き手と語り手が「異なるもの」であることを前提として、相互に理解を試みる行為

→必要なのは、双方がその行為に関わるという主体性  
現在の証言活動を取り巻く状況

- 多くの人が聞くことができる 時間の限定、語り手との距離、事前学習の少なさ
  - 語り手は理解してもらおうと工夫 聞き手の側は聞くだけで済む = 聞き手の主体性の不在
- 聞き手がより主体的になること、それが可能な場が必要なのは?

## 4. 実践のひとつのかたち

聞き手が主体的になりうる場の創出とは?

ひとつの試み

少人数

時間と回数

対話形式での試み

今後も模索する必要性